

令和4年度和歌山県文化奨励賞

ひやみず の え る 冷水 乃栄流

住 所 埼玉県草加市
出 身 地 和歌山県橋本市
生 年 平成9年

◎ 業績及び経歴

平成9年橋本市に生まれる。平成28年県立橋本高等学校を卒業。令和2年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業後、同大学修士課程作曲専攻に進む。

これまでに作曲を森川隆之氏と鈴木純明氏に、ピアノを中川知保氏に師事。現代音楽を中心に幅広い音楽活動を行う。

令和2年東京藝術大学の卒業制作として作曲した「TOKYO REQUIEM for Orchestra」が第89回日本音楽コンクールの作曲部門で第2位を受賞。同年、作品「『ノット ファウンド』オーケストラのための」が第30回芥川也寸志サントリー作曲賞最終候補となり、聴衆賞に選ばれるなど、権威ある賞を受ける。

邦楽器を用いた作品も多く、箏奏曲「脆性ノスタルジア」が、NHKEテレ「にっぽんの芸能」で演奏され、日本舞踊協会の国立劇場公演で新作振付を施して披露されるなど、氏の作品は日本の主要な交響楽団から伝統芸能に至るまで各方面から支持され、再演・委嘱も多い。さらに、テレビ朝日「題名のない音楽会」の編曲や、ブルーノート東京主催の公演へのアレンジ参加など、その活躍の場は多岐にわたる。

また、氏の出身である橋本市からの委嘱により「紀の国わかやま文化祭2021」のために箏合奏曲「紀の川メモリーズ」を作曲。母校の県立橋本高等学校邦楽部が同曲を初演し好評を博したほか、第46回全国高等学校総合文化祭日本音楽部門大会で「脆性ノスタルジア」を演奏し優秀賞文化庁長官賞を受賞するなど、故郷和歌山との結びつきも深い。

現代の世界の痛みとその先にある希望、脆く懐かしい遠い夏の記憶、など言葉では表現し尽くせないものを、自身の内なる風景をもとに、点と点を紡ぐように音を重ね具現化する氏の作品は、非常に芸術性の高いものであり、今後も更なる活躍が期待される。

■現在

・作曲家

◆主な表彰歴等

- 令和2年 第89回日本音楽コンクール作曲部門（オーケストラ）第2位
令和2年 第30回芥川也寸志サントリー作曲賞最終候補、聴衆賞
令和3年 東京藝大アートフェス2021グラプリ東京藝術大学長賞、ゲスト審査員賞
令和3年 橋本市文化奨励賞